

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 央福社会	代表者	上田 幸生	法人・事業所の 特徴	法人理念である「やさしい気配り 親思う 慈しみの心」を基本に、利用者一人一人が自分のペースで過ごせるよう、利用者の声を大切にし、主体的に過ごせるよう対応している。利用者の変化にも、すぐ気づき対応できるようスタッフ間の連携を図り情報交換・共有に努めている。 また、当ホームは、法人の理事長が元々住んでいた場所でもあり、名前も屋号からである。そういった部分を活かしながら、地域の行事にも積極的に参加している。また、ホーム内にて地域つどい事業を開催し、地域住民との交流を図り、地域に根付いていけるよう取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能ホーム かめやん家	管理者	中川 佑治		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	2人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	現在、出来ていることは引き続き継続していく。また、向上心を忘れず、今回の評価に対する意見、スタッフ間で話し合った自己評価や改善計画共に取り組んでいく。	改善計画のうちできている、取り組めている事柄が増えている。	改善計画のうちできている、取り組まれている事柄も増え、一部できていないところもあるが、何とかよくしよう、改善しようというところがみられる。十分な情報をいただいているので満足していると言う意見もあった。	本人との関わりはもちろんのこと、家族との関わり、自宅での生活状況・様子等をもっと知り、在宅生活が長く継続できるようにしたい。そのためには、利用者の日頃の様子を良く知り、モニタリングやケアプランについても、各利用者の担当スタッフが中心となり、ケアマネジャーと一緒に関わる形を今後も作っていく。また、月に一度のミーティングだけでなく、日々の中で、カンファレンスや担当者会議等、開催し、情報共有できる時間も作っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、ホーム内の清潔を意識し、不快な音やにおい等も無いよう、環境づくりをする。同時に、日中は鍵をかけないよう、また、暖かい日には玄関の扉や窓を開けたりと入りやすい環境づくりを継続する。ホーム周辺にゴミや吸殻等、落ちている場合があるので、スタッフが意識し、ホーム周辺もきれいにしていく。また、スタッフの自転車が乱雑に止めている場合もあり、見た目もよくない。次の人や来苑者が止めやすいよう配慮していく。	ホーム内の清潔を意識し、不快な音やにおい等も無いよう、環境に配慮している。日中はカギもかけていない。ホーム周辺の掃除も定期的に行っている。時折、自転車が乱雑になっている為、引き続き配慮していく。	すでにできているところは継続し、さらにホーム周辺の環境整備にも取り組まれている様子が伺える。取り組み姿勢も評価でき、現状を継続していただけたら。	引き続き、いつ誰がきてもきれいな事業所と思っていたらいいよう、外から見られているという意識を常に持ち、ホームの内外ともに掃除し清潔感のある事業所づくりをしていく。自由意見にもあった、もう少し入りやすい見学しやすい環境づくりが必要と言う意見を受け止め、どうすればもっと入りやすく居心地が良い環境になるのか、つどいや運営推進会議において地域の方の意見を参考に改善していきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き、積極的に地域の行事やイベントに参加し、つどいも継続し、地域の方に知ってもらえるよう取り組んでいく。また、地域の行事やイベントに参加したこと等をもっとかめやん家新聞やホームページ等を活用し、発信していく。地域の高齢者だけでなく、幅広い年代との交流について取り組んでいく中で、まずは小学校や中学校との関わりを増やせるようアプローチしていきたい。防災に関しては、ホームとして地域の方と何が出来、どう連携や協力体制が図れるか、運営推進会議や地域とのかかわりの中で意見をきき、進めていきたい。	つどいは継続でき、かめやん家新聞やホームページにて発信している。スタッフの人数の兼ね合いもあり、地域行事に参加できないときもあった。小学校や中学校との関わりは、行事や職場体験等を通じて少しずつ増えてきた。防災に関しては、地域の方との連携等、あまり前進できていない。	連合町会等の地域行事の参加が増えてよかったと思う。事業所独自で「つどい」を開催しているのは良い事である。今後も、取り組まれている内容を、さらに地域に発信して行く事はすばらしいと思うので実施してもらいたい。	前年度同様、職場体験の受け入れは継続していきたい。また、つどいも定着してきているので、今後も継続していきたいが、その中で、多様な世代の方に利用してもらえる内容を検討し実施していきたい。現状、サロンや喫茶、その他の地域行事にスタッフの人数の問題で、参加が難しくできていないことがあるため、参加できるようシフト調整していく。

<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>引き続き、各利用者が地域のイベントや行事に参加できるようにし、外出する機会を増やしていく。また、ホーム周辺の地域行事だけでなく、利用者のそれぞれの住んでいる地域の行事に「希望があれば参加出来るようにする。そのため、利用者の生活・習慣・なじみの環境や人とのつながり等を、把握し対応できるようにしていく。</p>	<p>利用者のそれぞれが住んでいる地域の行事については、個々で参加できる利用者は参加しており、事業所として関わっていないことが多い。ただ、利用者の生活やつながり等は、把握しようと取り組んでいる。</p>	<p>利用者の住んでいる地域の環境・人とのつながりを把握しようとする姿勢が伺える。積極的に地域の行事に参加しているが、スタッフ不足の時に参加できていない事もあり残念である。ただ、地域において認知度も上がってきている。</p>	<p>利用者だけでなく、スタッフと地域の方々との交流も出来てきている。近所の方々や会った時に挨拶はもちろんだが、会話等で見つかる変化に気づき、早めに関わっていきけるようにしていく。地域の高齢化もすすんでいるため、地域包括支援センターとの連携にて、地域全体を支えていけるよう少しずつでも取り組んでいきたい。Cと同様、地域行事はスタッフの人数の兼ね合いで参加できていない事もあるため、シフトや業務等を調整し、なるべく参加できるようにしていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>引き続き、運営推進会議では、ホームの取り組みや課題を伝え、問題提起をしていく。そうすることで、地域の方と共に考え向上する機会とする。様々な意見や情報を聞くためにも、地域の方で参加できるメンバーを増やしていく。ホームの利用者だけでなく、地域の心配な方に対して、どうしていくのか共に考えていきたい。</p>	<p>つどいに参加して頂いている地域の方で、1名会議の参加は増えた。地域の心配な方に対して、ホームの利用につながる方は、考える機会があったが、それ以外においては、なかなか取り組めていない。</p>	<p>家族の参加もあり、より良く運営されている。会議内では取り組み等が積極的に話もされているし、様々な問題提起を頂いている。もう少し、スタッフの参加があり、意見を聞きたい。</p>	<p>一時期、スタッフも参加できていたが、現在、スタッフの参加ができていない。スタッフも参加する事で、家族や地域の方の声等、直接聞く機会にもなるので参加できるようにしていく。また、意見を言える利用者も増えてきているため、利用者の参加やより開かれた施設になるよう地域住民の参加もアプローチし促していきたい。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>ホームとして防災についての対応には課題が多く、スタッフの意識も向上するよう取り組んでいかなければいけないのが現状である。それらを取り組むと同時に、ホームの防災マニュアルや防災計画についても伝え、家族や地域の方とも意見交換し見直し検討できるよう取り組んでいく。ホームとして何が出来るのか、どう地域と協力・連携できるのかを共に考えていきたい。また、ホームでの防災訓練(消防訓練)にも参加していただくよう声をかける。AEDについても、つどいの中で、定期的に講習会の開催をしていく。</p>	<p>つどいにおいて、AEDの使い方や防災の講習会は開催した。まだまだ、地域との連携や防災については課題が多いのが現状である。</p>	<p>AEDの定期講習はつどいの中でされており、頼りになる。地域の防災訓練にも参加されているし、福祉避難所として協力いただいている。ただ、事業所の防災訓練には参加したことがないとの意見も多数見られた。</p>	<p>つどい等を通じて、地域の方にもホームでの消防訓練や防災訓練に参加してもらい、地域と共に防災について考える場になれるようになっていきたい。また、今後、グループホームとの併設施設ではなくなることから、単独事業所として、防災マニュアルの見直しをする必要がある。区役所の防災担当の方の協力を得ながら、勉強し訓練し、都度、見直していきたい。4月～ホーム長が地域の防災リーダーの役割になったので、地域の防災会議や訓練に積極的に参加し、より連携を取れるよう取り組んでいきたい。</p>